

はじまるヨ! 小中一貫教育ニュース

志木市教育委員会
学校教育課
第 1 1 号
令和6年2月27日発行

習うより慣れる「やってみてよかった」という実感



2年生の国語授業 話に集中する児童

令和6年2月13日(火)には、志木市教育委員会と県教育委員会による学校訪問が宗岡第二小学校で実施されました。児童が学習に臨む様子や先生方の指導の様子を見ることができました。

宗岡第二小学校の阿部剛校長先生からは令和5年度の取組の説明の中で、「小中一貫教育について、宗岡中学校や宗岡第四小学校の先生方と自校の教職員が関わり、実際に活動を進める中で、先生自身から『実際にやってみて、よかった』という声を聞くことができた。」という報告がありました。

「習うより慣れる」という言葉のとおり、実際に体験することで小中一貫教育の良さを先生方が実感できたことは大きな成果だと言えます。

宗岡中学校区では3校の音楽科教員の乗り入れ授業や夏季休業日における児童対象の補習教室、3校の特別支援学級児童生徒の共同活動をはじめ、様々な取組があります。次年度も児童生徒や教職員が「やってみて、よかった」という取組に期待しています。

義務教育全体の効果を上げるという視点 学校だよりから

志木第二中学校から発行されております毎月の学校だよりから小中一貫教育に関する内容が興味深く、こちらのニュースで紹介をさせていただきます。

小学校・中学校は、簡単に言うと義務教育の分業です。一般に分業は、その分担内では効率が上がりやすいのですが、全体の効率には必ずしもつながらないことがあります。

たとえば野球であれば、内野と外野という守備の分担があります。もし、いつも内野は内野だけで、外野は外野だけで練習していたら、どうなるでしょう。各ポジションのスキルは上がるかもしれませんが、内野と外野の間のボールは誰がとるのか?外野に抜けたボールはどう内野に返すのか?といった守備全体として考えると課題が出てきます。

義務教育もこれと同じようなことが言えます。そこで、9年間の義務教育全体の効果を上げる、という視点で教育実践していくのが小中一貫教育です。(志木第二中学校・学校だより令和5年度2月号より)

今まで無意識に生活していた小学校・中学校を校長なりの見方・考え方で説明されております。教育委員会としても今後、先生方が自身の実践として、その良さを語れることを楽しみにしています。

【お問い合わせ先】志木市教育委員会学校教育課・教育改革グループ

本ニュースや小中一貫教育について、御意見や質問等がございましたら御連絡ください。

小中一貫教育に関するHP <https://www.city.shiki.lg.jp/site/syotyuyikkan/>

URLが変更されました。「お気に入り」設定の変更をお願いします。

☎048-456-5367 E-mail g-kyouiku@city.shiki.lg.jp

